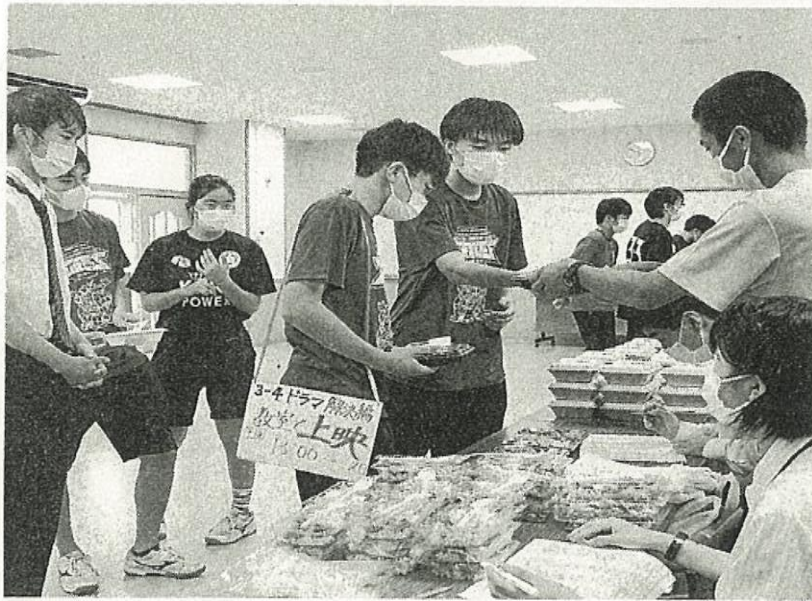


コロナ禍 地元飲食店を支援しよう

酒田東高
「東翔祭」

各店の“ランチ”提供



新型コロナウイルス感染 拡大に伴い、売上げが伸び悩む酒田市内の飲食店を支援しようと、酒田東高校

模擬店の代替イベント「酒田の味」PR

（大山慎一校長、生徒489人）は23日昼、同日まで2日間にわたって開催した学校祭「東翔祭」に合わせ、各店から「お取り寄せ」したメニューを全校生徒で味わう「地元のおいしさ再発見」全校で取り組む学校祭「ランチ」に取り組んだ。文化祭には欠かせない飲食を提供する模擬店の代替イベントとして企画したもので、「地元の味」に生徒たちが舌鼓を打った。

隔年の上、コロナ禍もあって学校祭の開催は3年ぶりで、飲食店を応援しようと開催した酒田東高の「地元のおいしさ再発見」23日昼

り。新型コロナウイルス感染予防のため調理を伴う模擬店が得意なというハンディを逆手に取って、同校で取り組んでいる課題研究で「中心商店街の活性化」をテーマにしている班もあることから、市内中心部に店を構える飲食店を支援しようと初めて企画した。

同校の呼び掛けに対し、▽米沢屋▽カフェエンブリ▽浜寿司▽小の木▽HACI▽グッドラックインドカレー▽POM▽まぎーずきっちゃん▽スリーピース▽JAMPYの市内10店舗が協力し、各店1〜4種ずつ計16種のメニューを提示。当日の密集・密接を防止するため生徒から事前にメニューを選択してもらい、現金の授受は終了済み。この

日は午前11時45分ごろから各クラスの代表が「売り子」になって商品引き換えを行い昼食時、全校で酒田の味を味わった。

東翔祭実行委員会の岩淵碧翔委員長（17）、小野寺咲羽副委員長（18）いずれも3年IIは、最初で最後となった学校祭に関し「経験のある先生から助言を頂きながら、学校祭を一から作り出した。みんなが楽しんでる様子を見るのが楽しい」と。代替イベントには「メニューを選んでる時から楽しかった。コロナ禍の中、これからも地域を盛り上げていきたい」と話した。

実行委員会では今後、生徒たちから書いてもらった「食レポート」、おいしさを食べている写真を校内に掲示し、各店の魅力を広く紹介。これらをまとめて最終的な「報告書」を協力各店に提出するという。